

※高大接続システム改革会議「最終報告」のポイント（詳細は別紙参照）

【英語の多技能を評価する問題の導入】

- 「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」の英語については、「話すこと」「書くこと」「聞くこと」「読むこと」の四技能の評価を推進する。
- このような観点から、その具体的な在り方について、民間の資格・検定試験の知見の積極的な活用の在り方なども含め検討する必要がある。

英語4技能の評価に関して、どのような形態が考えられるか。

（例）

- A センター単独実施 → センター単独で4技能を実施
- B 民間委託 → 4技能の全部又は一部（例：Speaking・Writing）について、センターが基準（仕様）を示し民間委託
- C 資格検定活用 → 4技能の全部又は一部（例：Speaking・Writing）について、センターが認定する複数の民間の資格検定試験を活用

※いずれの方法に関しても、SpeakingやWritingの採点者や採点期間の確保が必要。

また、実施コストが増大するため、その負担の在り方についての検討が必要。

英語4技能の評価で考えられる形態の例について（メリット・課題）

パターン	実施方法のイメージ	メリット	課題
A センター単 独実施	センター単独で4技能を実施 <日程> ①マークシートと同日に一斉 又は ②マークシートと別日程で一斉	■大規模共通試験としての同 質性 ■継続性・安定性 ■セキュリティ、不正防止対策	■センターにSpeaking・Writingの作問・実施・採点 の知見がない ■約55万人の受験生を対象とした実施場所や機 材の確保が困難 ■①の場合は現行の試験日程(2日間)には収まら ない可能性
B 民間委託	4技能の全部又は一部(例: Speaking・Writing)について、セ ンターが基準(仕様)を示し民 間委託 <日程> ①マークシートと同日(一斉) 又は ②マークシートと別日程(一斉) 又は ③マークシートと別日程(一斉 ではなく個別に指定した日程)	■民間の作問・採点・実施の 知見を活用しつつ、センターが 質をコントロール可能	■民間業者の不測の事態に備えた継続性・安定性 の観点からのセーフティネットが必要 ■セキュリティや不正防止対策 ■①の場合は現行の試験日程(2日間)には収まら ない可能性 ■③の場合は、複数の問題を比較可能とするため の仕組みが必要
C 資格検定 活用	4技能の全部又は一部(例: Speaking・Writing)について、 センターが認定する複数の民 間の資格検定試験を活用 <日程> 各民間業者が設定する個別の日 程により実施	■民間の作問・採点・実施の 知見を活用することが可能 ■複数回受検可能 ■留学、就職等にも結果を 活用可能	■異なる試験を比較可能とするための仕組み(学 習指導要領との整合性の確認や換算等)が必要 ■セキュリティや不正防止対策 ■受験料が高額になる可能性、離島・僻地等の受 検生への配慮

Ⅲ 高大接続システム改革の実現のための具体的方策

3. 大学入学者選抜改革

（3）「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」の導入

イ 基本的事項

③ 今後の社会で特に重要となる能力の育成・評価

- あわせて、グローバルに活躍できる能力の育成の観点から、現在「読むこと」と「聞くこと」の二技能の評価となっている英語について、「書くこと」と「話すこと」を含めた四技能を評価するための在り方を検討する。

ウ 具体的な仕組み

① 対象とする教科・科目等

（次期学習指導要領下における基本的枠組み（平成36年度～））

- ・ 英語については、「書くこと」や「話すこと」を含む四技能について、例えば、情報を的確に理解し、語彙や文法の遣い方を適切に判断し活用しながら、自分の意見や考えを相手に適切に伝えるための、思考力・判断力・表現力を構成する諸能力を評価する。また、民間との連携の在り方を検討する。

（現行学習指導要領下における基本的枠組み（平成32～35年度））

- ・ 英語については、「書くこと」や「話すこと」を含む四技能を重視して評価する。また、民間との連携の在り方を検討する。

④英語の多技能を評価する問題の導入

- 「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」の英語については、高大接続改革答申や「英語力評価及び入学者選抜における英語の資格・検定試験の活用促進に関する連絡協議会」の議論も踏まえ、今後、「話すこと」「書くこと」「聞くこと」「読むこと」の四技能の評価を推進する。
- このような観点から、その具体的な在り方について、民間の資格・検定試験の知見の積極的な活用の在り方なども含め検討する必要がある。その際、「高等学校基礎学力テスト（仮称）」に関する検討とも連携して進めることが重要である。
 - ・ 四技能のうち「話すこと」については、録音機能のついた電子機器（例えば、ICレコーダやタブレット型PCなど）による音声吹き込み試験とすることが考えられるが、特に環境整備や採点等の観点から、平成32年度当初からの実施可能性について十分検討する必要がある。

- ・ 検討に当たっては、次期学習指導要領及び現行学習指導要領との関係、必要な水準の確保等のほか、例えば、以下のような点にも留意する。
 - ・ 入学者選抜としての妥当性（把握しようとする能力が適切に測定 されているか、また、その測定値が適切に活用されているか）や信頼性（例えば、各回の試験結果が一貫するような問題作成方法や評価基準が提示されているかなど。）
 - ・ 適正かつ公正で透明性の高い試験実施体制（セキュリティや不正対策も含む。）
 - ・ 費用負担の在り方や受検機会の確保
 - ・ 継続性・安定性の確保
- ・ 英語の多技能を評価する問題の実施時期については、受検者や大学の負担の軽減、採点期間の確保などの観点から、マークシート式問題とは別日程で実施することも検討する。この場合、記述式問題と同日に同一会場で実施することも考えられる。
- これらのほか、大学入学者選抜全体として英語の四技能の評価を重視する観点から、各大学の判断により、民間の英語の資格・検定試験について、「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」の英語の代替として活用したり、個別選抜において活用したりすることも有効である。

⑦実施回数^{の在り方}

- 今回検討を進めている「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」では、前述のように、マークシート式問題に加え記述式問題や英語の多技能を評価する問題を導入することによって、これまでの共通テストより以上に、学力を多面的・総合的に評価する新たな枠組みを提供することを狙いとしている。こうした新たな枠組みが提供されることとなれば、教科の知識に偏重した1点刻みの評価の改革という点については大きく改善されることとなると考えられる。このことを踏まえると、まず、こうした新たな枠組みの実現を第一義として検討することとし、同種のテストを複数回実施することについては、新たな枠組みの実現のために必要な各論点に関する検討・実施の状況を見極めつつ、日程上の問題や、C B Tの導入や等化等による資格試験的な取扱いの可能性などを中心に、その実現に向けて引き続き検討することが適当である。

IV 改革の実現に向けた今後の検討体制等

(3) 大学入学者選抜改革について

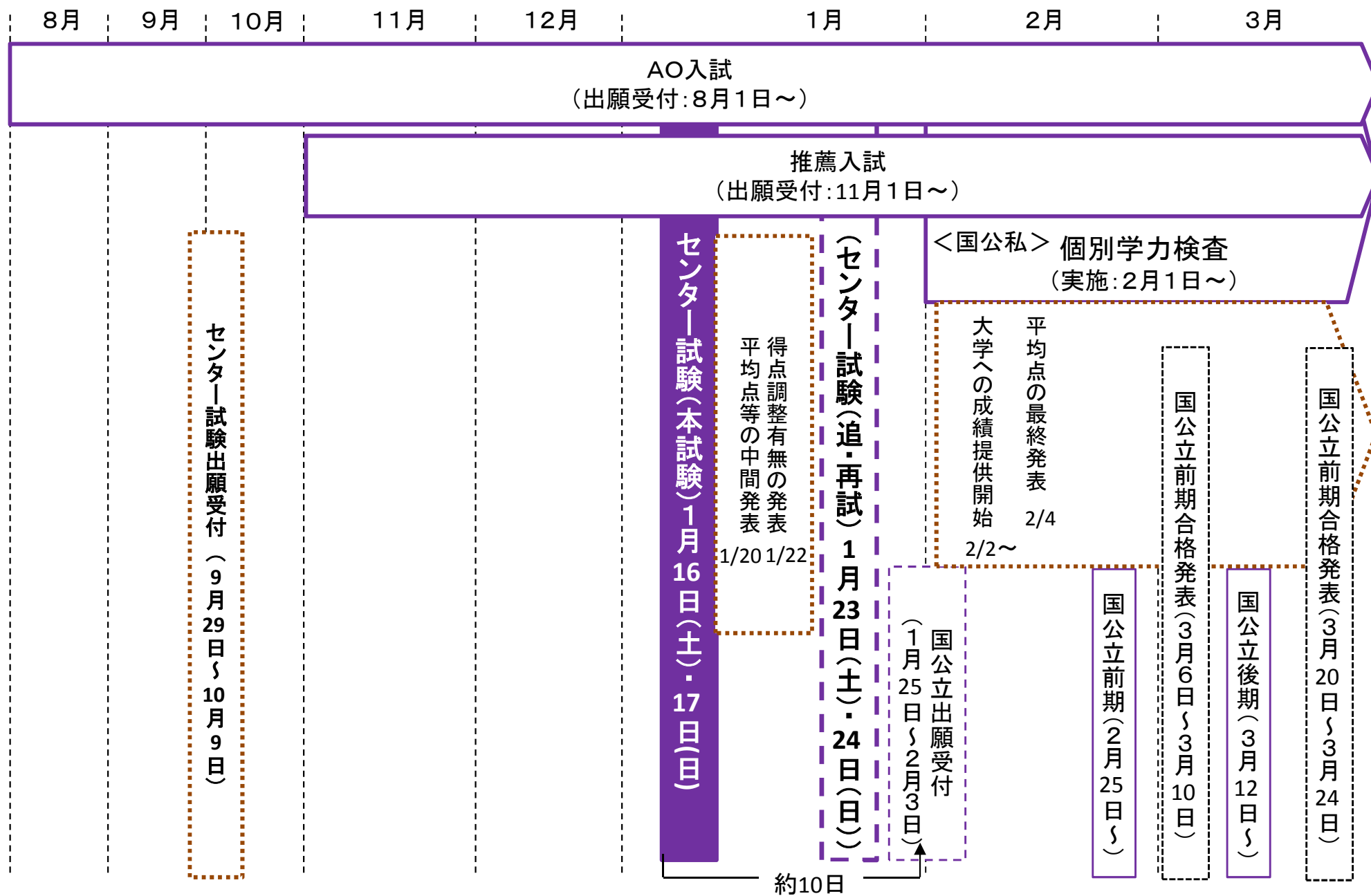
イ 「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」について

- 「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」については、本「最終報告」を踏まえ、文部科学省において、国公立大学や高等学校の関係団体等の参画を得て、技術開発の動向やコストも勘案しつつ、試行も行いながら、改革の狙いを具体化するための作問や実施方法等に関する実証的・専門的な検討を継続的に行う体制を構築し、検討を行う。その中で、適切な名称の在り方についても検討する。

検討結果を踏まえ、平成32年度からの実施に向け、平成29年度初頭には「新テストの実施方針」（対象教科・科目の出題内容や範囲、記述式及び英語の実施方法と実施時期、プレテストの実施内容、正式実施までのスケジュールなど）を策定・公表するとともに、平成31年度初頭を目途に、より具体的な実施内容を示す「実施大綱」を策定・公表する。

大学入学者選抜の現行スケジュール(平成28年度入試)

参考 1



大学入試センター試験の概要

【目的】

大学入学志願者の高等学校段階における基礎的な学習の達成の程度を判定することを主たる目的として、大学が共同して実施。

【平成29年度大学入試センター試験】

＜試験期日＞

- ・本試験：平成29年1月14日(土)、15日(日)
 - ・追(再)試験：平成29年1月21日(土)、22日(日)
- ※試験は1/13日以降の最初の土日に実施

【平成28年度大学入試センター試験】

＜志願者数、利用大学数等＞

- ・志願者数：563, 768人
[対前年度+4, 636人]
- ・試験場数：693試験場
[対前年度+3試験場]
- ・利用大学数：693大学
[対前年度+3大学]
- 157短期大学
[対前年度▲3短期大学]
- (国公私別)
 - 国立 82大学 [100%]
 - 公立 84大学 [100%]
 - 私立 527大学 [91%]
 - 公立 15短期大学 [94%]
 - 私立 142短期大学 [45%]

【平成28年度試験時間割】

※出題教科科目数 6教科31科目(第1回(平成2年) 5教科18科目)

期 日	出題教科・科目		試験時間
平成28年 1月16日(土)	地理歴史 公 民	「世界史A」「世界史B」 「日本史A」「日本史B」 「地理A」「地理B」 「現代社会」「倫理」 「政治・経済」「倫理、政治・経済」	2科目受験 9:30～11:40 1科目受験 10:40～11:40
		国 語	「国語」 13:00～14:20
	外国語	「英語」「ドイツ語」「フランス語」 「中国語」「韓国語」	【筆記】 15:10～16:30 ----- 【リスニング】 「英語」のみ 17:10～18:10
1月17日(日)	理科①	「物理基礎」「化学基礎」 「生物基礎」「地学基礎」	9:30～10:30
	数学①	「数学I」「数学I・数学A」	11:20～12:20
	数学②	「数学II」「数学II・数学B」 「簿記・会計」「情報関係基礎」 「工業数理基礎」	13:40～14:40
	理科②	「物理」「化学」 「生物」「地学」	2科目受験 15:30～17:40
1科目受験 16:40～17:40			

※参加大学数の割合の母数は、平成27年度入学者選抜を実施した大学数。

平成28年度大学入試センター試験（本試験）科目別受験者数及び平均点について

受験者数 536,722人

教科名	科目名	受験者数	平均点	最高点	最低点	標準偏差
国語 (200点)	国語	507,791	129.39 (64.69)	200 (100)	0 (0)	36.01 (18.00)
地理歴史 (100点)	世界史 A	1,449	42.07	100	0	16.71
	世界史 B	84,131	67.25	100	0	20.31
	日本史 A	2,472	40.81	97	0	16.91
	日本史 B	160,830	65.55	100	0	18.99
	地理 A	1,805	52.14	97	0	14.68
	地理 B	147,929	60.10	100	0	14.11
公民 (100点)	現代社会	80,240	54.53	100	0	16.60
	倫理	26,039	51.84	96	0	15.42
	政治・経済	49,184	59.97	100	0	16.48
	倫理, 政治・経済	48,709	60.50	100	0	15.71

教科名	科目名	受験者数	平均点	最高点	最低点	標準偏差	
数 学	数学① (100点)	数 学 I	5,981	36.48	98	0	19.74
		数学 I ・ 数学 A	392,479	55.27	100	0	19.93
	数学② (100点)	数 学 II	5,782	27.76	100	0	16.46
		数学 II ・ 数学 B	353,423	47.92	100	0	22.25
		工業数理基礎	1,401	57.71	98	6	18.11
		簿記・会計	539	56.21	98	11	19.48
情報関係基礎	4	54.25	90	22	24.68		
理 科	理科① (50点)	物 理 基 礎	18,304	34.37 (68.74)	50 (100)	0 (0)	10.27 (20.54)
		化 学 基 礎	105,937	26.77 (53.54)	50 (100)	0 (0)	10.73 (21.46)
		生 物 基 礎	133,653	27.58 (55.16)	50 (100)	0 (0)	9.24 (18.48)
		地 学 基 礎	47,092	33.90 (67.80)	50 (100)	0 (0)	10.55 (21.10)
	理科② (100点)	物 理	155,739	61.70	100	0	23.64
		化 学	211,676	54.48	100	0	20.94
		生 物	77,389	63.62	100	0	18.82
		地 学	2,126	38.64	100	0	15.77
外国語	【筆記】 (200点)	英 語	529,688	112.43 (56.21)	200 (100)	0 (0)	42.15 (21.07)
		ド イ ツ 語	147	130.92 (65.46)	197 (98)	39 (19)	42.14 (21.07)
		フ ラ ン ス 語	140	151.04 (75.52)	200 (100)	40 (20)	35.84 (17.92)
		中 国 語	482	158.02 (79.01)	200 (100)	29 (14)	33.74 (16.87)
		韓 国 語	174	128.05 (64.02)	196 (98)	40 (20)	43.18 (21.59)
	【リスニング】 (50点)	英 語	522,950	30.81 (61.62)	50 (100)	0 (0)	9.35 (18.70)

(注1) 平均点, 最高点, 最低点及び標準偏差欄の()内の数値は, 100点満点に換算したものである。

(注2) 上表の数値は, 得点調整後のものである。

民間業者からの聞き取りにより作成

Speaking<α社>

	パターンA	パターンB
人数	30万人	55万人
試験時間	10分程度	10分程度
解答形式	録音	録音
採点者 ※実働3時間	100人(ネイティブ)	100人(ネイティブ)
採点期間	20日間	60日間
採点方法	2人で採点	2人で採点
コスト	<div style="background-color: black; width: 100%; height: 1em; margin-bottom: 5px;"></div> (Writing、Listening実施分を含む3技能実施分)	<div style="background-color: black; width: 100%; height: 1em; margin-bottom: 5px;"></div> (Writing、Listening実施分を含む3技能実施分)

- ・会場数690※を想定
- ・タブレット、ヘッドセットを使用した録音形式を採用
- ・一斉実施
- ・各会場の人数分の機器を準備

【課題】

- 録音方式(周囲の受験者の声も聞こえる)に対する国民の理解
- Speaking時のカンニング(ヘッドセットをずらすなど)への対応
- コスト

Speaking実施に関するシミュレーション②

民間業者からの聞き取りにより作成

Speaking<β社>

	パターンC	パターンD	パターンE
人数	55万人	55万人	55万人
試験時間	7分程度	10分程度	8分程度
解答形式	録音	録音	対面
採点者 ※実働3時間	2,800人	5,000人	17,000人
採点期間	11日間	11日間	11日間
採点方法	2人で採点	2人で採点	1人で採点
コスト※	[Redacted] (4技能実施分)		[Redacted] (4技能実施分)

※受験者50万人で積算

- ・会場数770を想定
- ・PCを使用した録音形式を採用
- ・2時間で8回に分けて実施
- ・問題は8パターン準備
- ・各会場には30人部屋×3部屋を設置し、90人分の機器を準備



- 【課題】
- 録音方式(周囲の受験者の声も聞こえる)に対する国民の理解
 - グループによって問題が異なることへの理解
 - コスト

- ・会場数770を想定
 - ・対面形式を採用
 - ・集合時間を受験者別に設定
 - ・問題は6パターン準備
 - ・各会場には22部屋を設置し、1時間につき4名×8時間×1日で実施
- 【課題】
- 採点者の確保
 - 1回採点に対する国民の理解
 - グループによって問題が異なることへの理解
 - コスト

Writing実施に関するシミュレーション③

民間業者からの聞き取りにより作成


Writing<α社>

	パターン①	パターン②
人数	30万人	55万人
問題	2問	2問
語数	短文式100語程度、長文式200語程度	短文式100語程度、長文式200語程度
採点者	100人(ネイティブ)	100人(ネイティブ)
採点期間	20日間	60日間
採点方法	2人で採点	2人で採点
コスト	 (Speaking、Listening実施分を含む3技能実施分)	 (Speaking、Listening実施分を含む3技能実施分)

Writing実施に関するシミュレーション④

民間業者からの聞き取りにより作成

Writing<β社>

	パターン③	パターン④
人数	55万人	55万人
問題	1問	2問
語数	100語程度	要約70語程度、エッセイ200語程度
採点者 ※実働6時間	550人(海外委託)	900人(海外委託)
採点期間	11日間	11日間
採点方法	2人で採点	2人で採点
コスト※	 (4技能実施分)	

※受験者50万人で積算

主な英語の資格・検定試験

参考 3

試験名	Cambridge English	英検	GTEC CBT	GTEC for STUDENTS	IELTS	TEAP	TOEFL iBT	TOEFL Junior Comprehensive	TOEIC	TOEIC S&W
実施団体	ケンブリッジ大学 英語検定機構	日本英語検定 協会	ベネッセコーポ レーション Berlitz Corporation ELS Educational Services ※一般財団法人進 学基準研究機構 (CEES)と共催	ベネッセコーポレ ーション Berlitz Corporation ELS Educational Services	ブリティッシュ・カウ ンシル、 ケンブリッジ大学英 語検定機構 日本英語検定協会 等	日本英語検 定協会	テスト作成： ETS 日本事務局： CIEE	テスト作成： ETS 日本事務局： GC&T	テスト作成： ETS 日本事務局： IIBC	テスト作成：ETS 日本事務局： IIBC
受験人数	国内人数非公表 ※全世界では約 250万人	約263.5万人 (H26実績)	非公表	約81万人 (H27見込)	約3.6万人 (H27速報値) ※全世界では250万人	約1.3万人 (H27実績)	非公表	非公表	約240万人 (H26実績) ※TOEICプログラ ム全世界約700万 人	約2.4万人 (H26実績) ※TOEICプログラ ム全世界約700万人
回数 年間	2-3回	3回	3回	2回	約35回	3回	40-45回	2-3回	10回	24回
会場数	全国12会場	公開会場230都市 400会場+準会場 (離島含)17,000会 場	全国57会場	学校会場	—	全国30会場	全国90会場	全国170会場	全国256会場	全国43会場
成績表示 方法	KET/PET/FCE/CA E/CPE(5つ) CEFR、合否、 スコア(80-230)、 グレード	1級~5級 合否による表示 H27~スコア・バンド 併記	0-1400点	0-810点 (S 0-170点)	1.0-9.0 (0.5刻み)	80-400点	0-120点 (4技能を各0- 30点で評価)	0-352点	10-990点 (L、R各5-495 点)	0-400点 (S、W各0-200点)
実施 形式	L, R, W: 紙/CBT S: ペア面接	L, R: 紙/CBT (W): 紙 (S): 面接/CBT (*2)	L, S, R, W: CBT	L, R, W: 紙 S: タブレット	L, R, W: 紙 S: 面接	L, R, W: 紙 S: 面接 (*4)	L, S, R, W: CBT	L, S, R, W: CBT	L, R: 紙	S, W: CBT
受験料	PET(B1) 11,880 円~ KET(A2) 9,720円~(*5)	2級: 5,000円 準2級: 4,500円	9,720円	3,080円 L, R, W 5,040円 L, R, W, S	25,380円	15,000円	230USドル	9,500円	5,725円	10,260円

*1: L=Listening, S=Speaking, R=Reading, W=Writing

*2: Wは1級・準1級(H28から2級に導入), Sは3級以上(H28から4級・5級に導入)

*3: Sはオプション

*4: L/R, L/R/Wでも受験可能

*5: 実施試験センターにより異なることあり

各試験団体のデータによるCEFRとの対照表

CEFR	Cambridge English	英検	GTEC CBT	GTEC for STUDENTS	IELTS	TEAP	TOEFL iBT	TOEFL Junior Comprehensive	TOEIC / TOEIC S&W
C2	CPE (200+)				8.5-9.0				
C1	CAE (180-199)	1級 (2810-3400)	1400		7.0-8.0	400	95-120		1305-1390 L&R 945~ S&W 360~
B2	FCE (160-179)	準1級 (2596-3200)	1250-1399	980 L&R&W 810	5.5-6.5	334-399	72-94	341-352	1095-1300 L&R 785~ S&W 310~
B1	PET (140-159)	2級 (1780-2250)	1000-1249	815-979 L&R&W 675-809	4.0-5.0	226-333	42-71	322-340	790-1090 L&R 550~ S&W 240~
A2	KET (120-139)	準2級 (1635-2100)	700-999	565-814 L&R&W 485-674	3.0	186-225		300-321	385-785 L&R 225~ S&W 160~
A1		3級-5級 (790-1875)	-699	-564 L&R&W -484	2.0				200-380 L&R 120~ S&W 80~

英検：日本英語検定協会 <http://www.eiken.or.jp/forteachers/data/cefr/>
http://www.eiken.or.jp/association/info/2014/pdf/0901/20140901_pressrelease_01.pdf

TOEFL：米国ETS <http://www.ets.org/Media/Research/pdf/RM-15-06.pdf?WT.ac=clkb>

IELTS：ブリティッシュ・カウンシル（および日本英語検定協会）資料より

TEAP：第1回 英語力の評価及び入試における外部試験活用に関する検討会 吉田研作教授資料より

Cambridge English（ケンブリッジ英検）：ケンブリッジ大学英語検定機構 <http://www.cambridgeenglish.org/exams-and-qualifications/cefr/cefr-exams/>
<http://www.cambridgeenglish.org/exams/cambridge-english-scale/>

※各試験団体の公表資料より文部科学省において作成

GTEC：ベネッセコーポレーションによる資料より
「L&R&W」の記載が無い数値が4技能の合計点

TOEIC：IIBC <http://www.toEIC.or.jp/toEIC/about/result.html>
「L&R」または「S&W」の記載が無い数値が4技能の合計点